

わんぱく学園ニュース

平成19年 3～4月号 NO129

春の野原や道ばたに親しみ深く愛らしい野草。葉は根元から幾重にも重なり合い柔らかく、その中心部より花茎が伸び、頂に鮮やかな黄色い花をつける…そう…たんぽぽの花が咲く頃……。なぜか幼き頃をふと思い起こさせてもくれる花は、鼓草(つみくさ)とも言う。

「たんぽぽや、柚(ゆず)の道辺に、ひそと咲き」～垣

森の奥から

神奈川 風祭の森 太陽の門福祉医療センター
医師 河原 仁志

先日、羽田空港からの帰りぼんやりと外を眺めがら、心地よい列車の揺れにしだいに意識が遠くなるのを感じていた。そんな時突然、工事現場に掲げられた「まさか」から「もしも」の意識改革という標語が目に飛び込んできた。一瞬にして目が覚め、「これだ」と叫びながら席から立ち上がりそうになった。

私は今までに医療現場や教育現場などで起こる様々な問題に直面してきた。その際にいつも感じていた「もやもや」が一気に吹き飛んだような気がした。

障害を持つ方をサポートする人々、否障害者自身も「事故など、まさかおこらないだろう」という勝手な思い込みをしていないだろうか。「安全」を確立するためには、「まさか」ではなく「もしも起こったら」という考え方を実践すべきである。フェイルセーフという言葉がある。フェイルは失敗、セーフは安全と訳すのだろう。「人は失敗する生き物だ。しかし、たとえ失敗が起こっても安全が保たれるようなシステムを作る」ことを意味する。欧米では、こういった考え方が当たり前だと聞く。しかし日本では「縁起でもない」といって、現実を見ざる、言わざる、聴かざることに終始する傾向がある。これでは、安全は決して守れない。「まさかからもしもへ」。我々医療・福祉に携わる者は、今こそ産業界から学ばなければならない。こういった異業種から学ぶ姿勢こそバリアフリーの実践である。

いじめ…誰の責任？

いじめは競争社会が生んだ病いである。「いじめ」の問題が表面化すると学校のあり方が問われることが多い。でもそれは、間違っているのではないのでしょうか？

人間の生活設計の基本は家庭にある、育て方にあるのでは。子育てを学校に任せ、自らの責任を果たしていない私たち親の責任にあるのではないかと思います。学校はいじめやすく、反論しない…だから、これもいじめであるように思います。問われるべきは、子育てに本当の愛情があったのかということでは？

ひたむきに生きる障害をもった子供たちの瞳は美しい。子育てをしながら教えられる毎日。それは人をいじめて優越感を得るといふ心の病いを、この子たちから指摘されているように思えるからです。[記 垣和]

◆3月・4月の「わんぱく学園」のメニューは下記の通りです。

3月 11日	画家になって遊ぼう！(担当:楨野良 駈;ギャラリー ミチル) ミチル喫茶で 楽しまない？
18日	イチゴ大福作ろう？(担当:原幸・山口恵 駈;夕張コミュニティ) 準備物 耐熱ボール、ヘラ又はしゃもじ 材料費300円準備して来てね 募参加希望は14日までに 原報まで(☎72-0452)
25日	粘土コネコ あ～そぼ！(担当:安食ひろ 駈;アリエおちらと) お茶処「おちらと」で、ひろ校長のインドみやげ話
4月 15日	竹ん子掘りす～か(担当:福田 原 報 山口 野 土江 継) おにぎり・水筒の準備してね 集合場所:アリエおちらと 行き先:原周弘さん宅(野谷) お家にスコップ等がある人は準備してね
22日	荒神谷遺跡公園探検ごっこ(担当:楨野 良 土江 継 雨の場合:ミチル) ごみ拾いもしてピッカピカにしよう!! ごみ袋準備 現地の管理棟前9時半集合
29日	陶芸家に変身～!?(担当:安食ひろ 駈 アリエ おちらと) 葉桜見ながら野だてしけい?山崎古墳にて(おちらとさん家 敷内)

#集合時間 9時30分 集合場所 光人塾前又は直接行ってね

《学園の隅々へ》 土江09077745913》 [文責 土江 和世]